

【参考資料】小中一貫教育の推進・小中連携教育の一層の充実



義務教育9年間を見通した児童生徒に必要な資質・能力の育成



日高教育局では、学校段階等間の接続について教職員が理解を深められるよう、様似町立様似小中学校の取組を基にし、義務教育9年間で育成する資質・能力を高める取組について、参考資料を作成しました。

各学校の校内研修等において、令和2年（2020年）10月21日付け事務連絡「『北海道における小中一貫教育について（第3版）の時点修正について』の活用を図るとともに、管内の取組等を参考にし、小中一貫教育の推進及び小中連携教育の一層の充実を図ってください。

グランドデザイン

令和2年度 様似小中学校の教育

【法の要請】
憲法
教育基本法
学校教育法

教育目標

様似を愛し 自ら考え 進んで学ぶ子

【経営の基本】
北海道教育の目指す姿
日高管内教育推進の重点
様似町教育行政執行方針

経営の基本方針

創意ある教育課程の編成と小中一貫教育の推進
地域に根差した開かれた教育活動の推進

育成を目指す資質・能力

コミュニケーション能力の育成 プレゼンテーション能力の育成

知 学びづくり

- ◎目指す子ども像
主体的に学び
仲間と学び合える子
- ★具体的取組
 - ・わかる・できる・考える
授業の実践
 - ・「主体的・対話的で深い学び」
を目指した授業改善
 - ・「小中相互授業」「小学校教科担
任制」の促進
 - ・家庭と連携した家庭学習の推進
 - ・「ふるさとアポイ学」の充実

今年度の重点的な取組

徳 心づくり

- ◎目指す子ども像
心豊かで
挨拶のできる子
- ★具体的取組
 - ・あいさつの習慣化
 - ・相手意識を共有できる
心の育成
 - ・道徳授業の充実
 - ・地域素材の活用

体 体づくり

- ◎目指す子ども像
心身ともに元気で
たくましい子
- ★具体的取組
 - ・規則正しい生活習慣の定着
 - ・姿勢・体幹を意識した
日常生活の推進
 - ・小中一貫した
体育的活動の促進

学校づくりの充実

「チーム様似」の推進 — 小中一貫教育
～思いを伝え 学び合いを深めるための 授業改善の実現～

9年間の発達の段階を踏まえた資質・能力の育成

小学校及び中学校の義務教育段階においては、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎等、小学校及び中学校9年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていくことが求められています。

様似町立様似小中学校の取組

グランドデザイン重点目標 各期の最終目標

準備期 (1年生)	入門期 (2・3・4年生)	習熟期 (5・6・7年生)	活用期 (8・9年生)
順序立てて話したり、相手の方 を向いて話を最後まで聞いたりし て、相手との会話を楽しむことが できる。	自分と相手の意見の相 違を意識し、話題にそった 話し合いをすることができ る。	多様な思いや考え方を共有・共 感しながら討論することができる。	多様な思いや考え方を共有・ 共感し、解決の糸口を見つける ために、議論することができる。

コミュニケーション能力

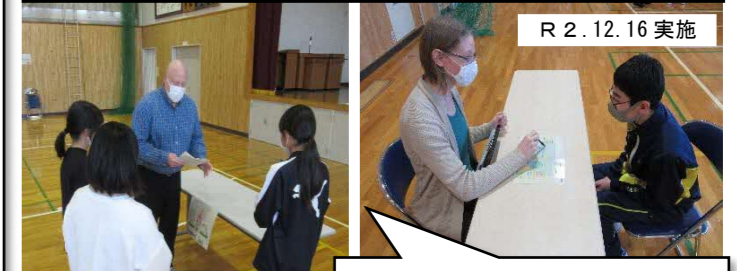
プレゼンテーション能力

定型句やパターン化された原稿を もとに、発表することができる。	調べたことをもとに、筋道を 立てて発表することができる。	取捨選択した必要な情報をもとに、 相手に伝わりやすいように表現を 工夫し、発表することができる。	自分の考えを資料・データ・実 体験をもとに、論理立てて表現 し、理解を得ることができる。
------------------------------------	---------------------------------	--	--

ポイント①
「義務教育9年間を見通した児童生徒に
付けたい力」を学校、保護者、地域間で共有

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で整理されたことを踏まえ、自校で育成を目指す資質・能力を明確にし、学校運営協議会等の合同開催を通じて、それに基づく教育課程の基本方針を共有することにより教育効果を高めています。

中学校体育館で開催「英語 de トライ」「English トライアル」



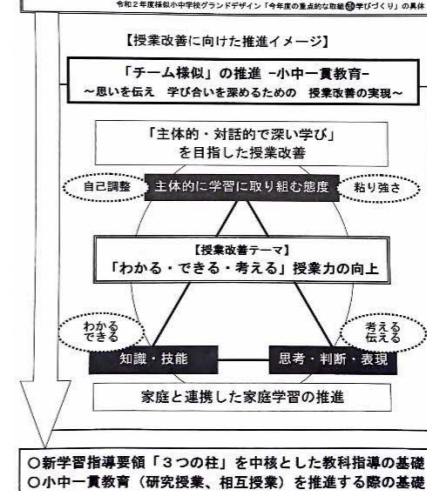
R 2. 12. 16 実施

ポイント②
合同研修会で教職員の資質向上

小中合同研修会を定期的実施し、教職員の資質向上を図ることが大切です。



『わかる・できる・考える』授業実践に向けた研修の充実



ポイント③
小・中学校における教育
内容と指導体制の確立

外国語教育等において、教科指導ができる中学校の教員と小学校の学級担任が連携し児童生徒が主体的に取り組めるよう指導体制を整備しています。

9年間の学び方をまとめたスタンダードの作成、教科担任制や相互乗り入れ指導などを通して、9年間を通じた指導の一貫性を確保するとともに、教職員の資質向上や体制整備を進めることが大切です。